

NO.	該当 ページ	意見内容	反映状況
1	表紙	改定の「定」の字は、このような冊子を編纂する場合は「改訂」が正当ではないでしょうか。内容を変えするという作業の主旨の場合は「定」の字を使うという認識です。	改定については法律や規則、制度などの「定めごと」を改める場合に用い、改訂は書籍・文書の「内容」を改める場合に用いる違いがあり、本指針は単なる文書というよりは、市の施策の方向性を定めるものと捉えておりますので、「改定」で据え置かせて頂くこととしました。
2	2	雪かきの例については、船橋で頻繁に発生する事業ではないものの、災害のようで災害でない、もし発生した場合には、市民一人ひとりにとって身近な協働の事例としては良いものと思う。雪が降ったら誰かがやらなければいけないもの、やらなければ困る（小さな災害）という意識付けをしてもらえるような、「もし大雪が降った時にどうなる？」という描き方が良いのではないか。	大雪が降った時のことをまずは想像してもらう目的で、家の周りに雪が降り積もった状況をイラストで挿入しました。次に、雪かきを協力して行うことで、安心して暮らせる環境になった旨のイラストを挿入しました。
3	4	市民参加の流れの部分で、何を「市民参加」と定義づけるのか。ハードルを下げるためには、「自治会の行事に参加した」などの一歩が市民参加という位置づけでも良いのではないか。	「これも市民参加です！」という記述を加え、身近な一歩も市民参加と捉えてもらうよう修正しました。
4	6	障害者の表記については、船橋市で障害基本法で使われる「障害」で統一対応している旨を注記した方が良いと思います。	ご指摘のとおり、余白に追記いたしました。
5	6, 8	公民連携と官民連携の言葉の使い方について、船橋市のルール等を踏まえて整理してください。	船橋市では、「船橋市公民連携推進の指針」において、「市と事業者との連携」を公民連携と定義づけているため、トピックの題名を修正し、内容も改めました。また、P8の官民の連携についても、「市政への参画と協働」に修正しました。
6	8	官民の協働について、前指針の流れを受けて協働の類型を並べて記載されているが、例えば「後援」「共催」の順にしたり、寄附より上にボランティアが来るなど検討していただければと思います。	ご指摘のとおり修正しました。
7	11	「協働の質」の表現が分かりづらいので、改善を望みます。	「協働の質」を協働の効果・持続性に修正しました。
8	12	各主体の将来像を入れて頂いて、良いと思うが、もう少し具体的な行動の中身があって良いのではないか。また、せっかく各主体の将来像が描かれているので、イメージ図のようなものがあると良いのではないか。	具体的な行動については、概要版にて記すこととし、またイメージ図（各主体が生き生きと輝いているような図）を挿入することを検討したいと思います。